

平成28年度「地方創成加速化交付金による研究費補助」報告書

報告者：塩見 直紀（福知山公立大学地域経営学部特任准教授）

研究課題名：いま北近畿では、どこが「先進地視察」されているかに関する研究

内容：北近畿（京都は丹後・中丹地域、兵庫は但馬地域であるが、福知山市に隣接する丹波市も含めた）において、「先進地（先進地視察先）」として、熱い視線を浴びているところはどこか。視察対象（行政、企業、NPOなど）の「リストアップ」「見える化」「洗い出し」をおこなうことを28年度の目標とした。

調査方法：北近畿圏内に「北近畿経済新聞」の読者をもつ北近畿経済新聞社（本社・綾部市）との共同調査。独自のルートをもつ4名の記者より行政や商工会議所等へ、「過去3年の間、年1回でも市外から視察を受けたもの」の情報提供を2017年1月から3月の間、呼びかけ、集約化。筆者（塩見直紀）も収集した情報を加えて、市町別の表にまとめた。市町や担当者により、計上する基準にばらつきがでてくることは企画当初より想定しており、今回の調査は第1次調査と位置づけている。28年度はリストアップを試みることをめざしたが、今後、精度をあげ、地域特徴等の分析をおこなっていく。

筆者集計による視察項目数ならびに主だった視察内容：

（切り口が異なるもの、可能性を秘めている観点であると思われるものは1とカウントしている）

●京都府北部地域（125）

福知山市10＝中心市街地活性化の取り組み、福知山公立大学設立と取り組み（公立化への転換）など
舞鶴市10＝舞鶴引揚記念館（ユネスコ世界記憶遺産認定）、市保育所、民間保育所、幼稚園などの乳幼児教育（アクティブラーニングの導入）など

綾部市30＝市街地調整区域（線引き廃止）、宅建業者との連携について（空き家対策）など

宮津市9＝宮津バイオマス・エネルギー製造事業所（竹資源有効活用プロジェクト、日本初の竹バイオマス発電所）、ふりスタ（振り返りスタディ）事業 など

京丹後市55＝海の京都観光圏について、山陰海岸ジオパークの取り組みについて など

伊根町5＝「日本で最も美しい村」連合の取り組み（舟屋の保存活用など）、小中学校教育費無償化など

与謝野町6＝与謝野町ブランド戦略事業について、ルフレかやの里（障がい者就労レストラン）など

●兵庫県北中部地域（99）

豊岡市63＝城崎国際アートセンター、アーティスト・イン・レジデンスの取り組みについて、城崎オンパクの仕掛けづくり など

養父市10＝農業分野の国家戦略特区の取り組みについて、カーボンオフセットクレジットの販売とその資金を活用した山林整備について など

丹波市3＝株式会社ゆめの樹 野上野（全国的にもめずらしい自治会全額出資のまちづくり会社の運営）について など

朝来市5＝竹田城跡の観光振興策について、創業支援店舗（インキュベーション施設）「段々」 など

香美町14＝魚食普及事業（とと活隊）について、地産地消によるふるさと給食について など
新温泉町4＝温泉バイナリー発電について、子育て支援センターについて など
北近畿圏の合計224

まとめ：

北近畿圏において224の視察のテーマをリストアップすることができた（京都府北部で125、兵庫県北部で99）

全国市議会議長会編の平成27年度版『全国都市の特色ある施策集～まち・ひと・仕事づくり～』では「全国の都市が抱えている様々な課題を解決するため、それぞれの地域の特性を最大限に活かしつつ、自らの創意工夫により取り組んでいる各都市の施策を取りまとめたもの」を制作している。昭和55年度に初刊行し、4年ごとに刊行、27年度版で第10巻目、平成27年度版では、409市の967件の特色ある施策を収録している（全国市議会議長会HPより）

『全国都市の特色ある施策集～まち・ひと・仕事づくり～』では、「市議会/福祉・医療・介護（高齢者・障がい者・児童・青少年・家庭）/民間活力導入/雇用・労働/男女共同参画/教育/文化・歴史・スポーツ/協働・市民活動/広報・広聴・情報化/環境（廃棄物・自然その他）/産業・観光・交流/安全・防災/交通・運輸/行財政改革・事務改善/まちづくり構想/その他」という分類をおこない掲載、また巻末には47都道府県（市町村）別に分類し、求めるテーマから、また地域から検索可能なつくりとなっている。こうした先例に学び、北近畿における産官学民の先進事例リストをつくり、ウェブで公開していくことも大変意味のあることが見えてきた。

視察されている内容を分類整理等おこない、まちの取り組みの特徴や強み、ビジョンなど分析をおこなっていききたい。各市町であがったものを各自治体等にフィードバックをおこない、追加等を加えた一覧をHP等で見える化することで、北近畿における「総合発信力」を高め、視察誘致、交流人口数の拡大を模索していきたい（様々な連携において、実現を模索）。

各市町が「視察されるまち」、「学びやノウハウを提供できるまち」「付加価値の高いまち」となり、それを競い合い、「さまざまな取り組みの先進地の集合体としての北近畿」となることを願う。本研究がきっかけとなり、北近畿の発展へとつながる新たな発想が生まれたら幸いである。